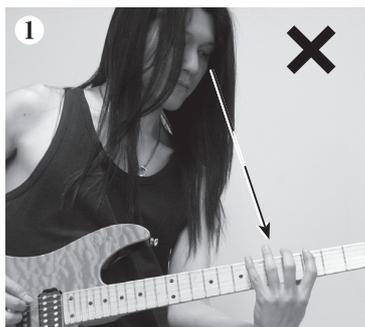


注意点1



常に次のポジションを
チェックしながら弾こう

ポジション大移動を弾く際の注意点は、視点の置き方だ。これは単純なことではあるが、意外と難しく、さらに忘れがちになってしまう。誰もが押さえている指を見ってしまうのは当たり前(写真①)。しかし、押さえているわけだから見なくてもいいはず。つまり常に次に押さえるポジションを確認しておくことが大切だ(写真②)。そうすることで、ポジション移動をスムーズに行なえるようになるだろう。しかし、それでも押弦が間に合わなかったり、逆に先に弾くフレーズを前のめり気味に弾いてしまうこともある。そんな時は“勘”に頼ってほしい。“何だよ!”って怒る人もいると思うが、多くの練習や経験で“土地勘=フレット感覚”を身につけることが最も大切だ。指板を見ずに弾けるようになるろう。



1 今、押さえているポジションばかりを見てしまっは、次のポジションにスムーズに移動できない。



2 常に次のポジションを目で確認しよう。こうすることで、大幅なポジション移動にも対応できるはず。

注意点2



押弦→離弦→移動という
基本動作を再確認せよ

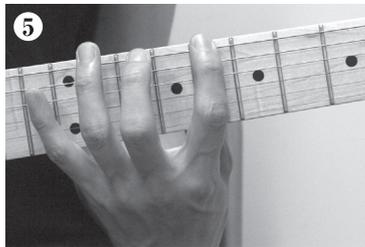
このフレーズは、6音で1つのポジションとなっており、さらに6音目が開放弦となっているのがポイントだ。まずは1小節目1 & 2 拍目のフレーズを見よう。5音目の6弦3フレット(写真③)を人差指で弾くと同時に、次の6弦8フレットを見ることが大切だ。そして人差指を離して開放弦をピッキング(写真④)。この瞬間に8フレットに少しでも移動しておこう。そうすることで、次の6弦8フレットの押弦が楽にできる(写真⑤)。どんなギタリストでも、初めから速いフレーズを上手く弾けるわけではないので、ゆっくりと練習することは恥ずかしいことではない。“押弦→指を離す→移動→押弦”という動作を何度もくり返すことで、フレットを見ずに思い通りの押弦ができる“土地勘”を養えるはずだ。



3 6弦3fを人差指で押弦。この時、移動先の6弦8fを確認!



4 6弦開放を鳴らすと同時に、6弦8fの方に人差指を移動。



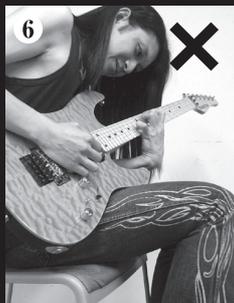
5 6弦8fを押弦すると同時に、中指と小指の押弦準備をする。

~コラム8~

地獄の戯れ言

ここでは、無駄のないギターの構え方について解説しよう。ロック・ギタリストは、座って弾く際にも、常に立って演奏する時の構えを基本とした方がよい。しかし、猫背姿勢ではダメだ(写真⑥)。これでは立った時と指板の見え方が異なり、フィンガリングの距離感が鈍り、さらに肘が張っているので、ピッキングの角度や右手の使い方が変わってしまう。また意外と多い寝そべて弾くタイプ(写真⑦)は、ヘッドが下がり手首がつかくなる。最も良いのは、背筋を伸ばし、ギターを正面からやや斜め上の方向に構えること(写真⑧)。さらに座っていても、常にストラップをかけていると、立った姿勢を意識できるのでオススメだ。

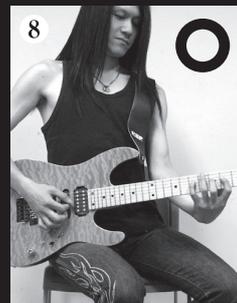
キミは、ちゃんとギターを持てるか?



6 猫背姿勢に慣れると、ステージ上では何も弾けなくなるぞ。



7 寝そべて弾くと、ヘッドが下がり手首を傷める危険がある。



8 オススメの姿勢。さらにストラップをかけておくといいぞ!